

Thomson StreetEventsSM

コンファレンス・コール議事録

GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

開催日時：2005 年 7 月 15 日午前 8 時 30 分（東部標準時）

所要時間：1 時間 6 分

会社側出席**ビル・ケアリー**

GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ・イメルト

GE - 会長兼 CEO

キース・シェリン

GE - CFO

コンファレンス・コール出席者**ニコル・バレント氏**

クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

ジェフ・スプレーグ氏

スミス・バーニー - アナリスト

ディーン・ドレー氏

ゴールドマン・サックス - アナリスト

スコット・デーヴィス氏

モーガン・スタンレー - アナリスト

スティーブ・トゥサ氏

JP モーガン - アナリスト

ドン・マクドゥーガル氏

バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

ジョン・インチ氏

メリル・リンチ - アナリスト

トニー・ボーズ氏

AG エドワーズ - アナリスト

ボブ・コーネル氏

リーマン・ブラザーズ - アナリスト

プレゼンテーション**オペレータ**

皆様、本日は GE の 2005 年第 2 四半期コンファレンス・コールにご参加いただきありがとうございます。現時点では、ご参加いただいた皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日コンファレンス・コーディネータを務めさせていただくレイチェルと申します。（オペレータからの説明）なお、本会議の内容は録音されます。

引き続き、本日の会議主催者であり、インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデントであるビル・ケアリー氏に進行をお願いします。では、よろしくお願いいたします。

ビル・ケアリー GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ようこそ、皆さん。本日は、ジョアンナと私が弊社の第 2 四半期収益コンファレンス・コールを主催させていただきます。本会議はウェブキャストを使用しております。GE.com/investor で、今朝からプレス・リリースとスライドをご覧いただけます。表示されていない場合は、画面を更新してください。そうすると表示されるはずです。もちろん、これからご紹介するスライドのダウンロードや印刷ができます。

本プレゼンテーションには、将来の予測や弊社の最良の展望、現時点での事業に基づいた内容が含まれております。もちろん、情勢が変わっていく場合がありますので、その点を踏まえてお聞きいただければ幸いです。本日はまず、第 2 四半期の業績についてお話しします。その後、第 3 四半期の展望についても説明いたします。もちろん、最後に質疑応答の時間を設けております。

本日は、会長兼 CEO のジェフ・イメルトとシニア・バイス・プレジデント兼 CFO のキース・シェリンから説明させていただきます。では、ジェフ、始めましょう。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

皆さん、おはようございます。本四半期を概観してみますと、これまで同様、弊社にとって非常に堅調な四半期でした。ビジネスのファンダメンタルは引き続き上向きです。受注額成長率はご覧のように GE 全体に渡って 13% と非常に堅調で、資産内容もよく、主要機器の受注残も 15% 積み増しされました。

プレス・リリースに示しております財務実績も弊社の好調ぶりをさらに強調しています。内部収益は 8% 増、全収益は 13% 増です。利益は 24% 増の 46 億ドルで、1 株当たり利益は 0.44 ドルとなっています。11 事業のすべてで 2 桁以上の成長を達成しました。中でもエナジー事業の 2 桁成長はここ数年で本四半期が初めてです。インフレを相殺しつつ、利益率も順調な拡大を見せ始めており、この傾向は長期的に継続すると考えております。

キャッシュも非常に堅調で 18% 増、インダストリアル事業の CFOA も 24% 増加しました。総資本に対する増加収益は 30% アップしました。以上のように、まさに業績のあらゆる面で非常に好調な四半期でした。弊社の歴史の中でも最良の四半期の 1 つだと言えるでしょう。

内部成長に関わるイニシアチブは、引き続き良好な配当を支払いました。サービス事業は 10% の増収でした。CSA の受注残は 15% 拡大しました。世界的な成長も順調で、成長プラットフォームも順調。このように、過去数年間お話ししてきましたイニシアチブは、本当に弊社の全部門に成果をもたらしてくれています。今年度の下半期も強気の見通しで、2006 年度に入ってもこのまま好調な増収、増益、1 株当たり利益の拡大が高い割合で維持できるでしょう。また、CFOA とキャッシュフローは確実に 2005 年の計画値を上回ります。

本四半期が非常に好調だっただけでなく、下半期に向けても見通しが得られ、弊社の現状と今現在の勢いには非常に満足しております。

ざっと、好調な面をピックアップし、各セグメントの詳細は後でキースの方からご説明しましょう。トランスポーター事業は航空部門と機関車部門が非常に好調で、新製品の大量導入を背景に受注残を積み上げ、世界的に業績を拡大しています。エナジー事業は世界的に収益が成長しており、「エコマジンネーション」製品を中心に一定の拡大を続けています。風力や高機能 H ステムの大型受注も中国で引き続き好調です。

ヘルスケア事業では、絶えず技術を投入しているおかげで成長推進に役立っています。いくつかの製薬会社と有望なコラボレーションを発表しておりますが、これはまさにアマシャム社と GE の提携の力を示すものであり、Innova 2100 のような新製品を今後も投入していきます。

コンシューマー・ファイナンス事業は、スペインと中米に新たなプラットフォームを築き、世界的な拡大を続けております。コマース・ファイナンス事業も世界的に成長し、CIT の航空機資産ポートフォリオや Bombardier の在庫金融事業など、弊社のパワーを増強するプラットフォームの買収も行いました。

NBC ユニバーサルでは、NFL がブライム・タイムで強みを見せており、今後も会社に貢献すると考えております。インフラストラクチャー事業では、淡水化設備をアルジェリアで獲得しました。世界で最も効率的な淡水化プラントになる見込みです。また、セキュリティ製品部門でも世界的に堅調な成長を見せています。

コンシューマー・インダストリアル部門は引き続きハイエンド製品戦略を推進しており、粗利益率向上に寄与しています。また、アドバンス・マテリアルズ部門も MPI が利益率と販売数量の両面で成長しております。このように会社全体に渡って業績が好調に推移しており、将来に向かって成長を推進し続けるものと考えております。

最後に、弊社が従来から重点を置いております内部成長についてご説明します。本四半期は内部的成長が 8% と、世界の GDP の約 3 倍となっています。10% を超える内部成長を達成した事業もいくつかあります。コンシューマー・ファイナンス、ヘルスケア、

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

トランスポートेशनなどがそうです。会社全体が着実に成長しているわけです。弊社が強調しております成長関連の主要なイニシアチブについて少し補足しますと、製品サービスの売上が 10%増加し、新 CSA コミットメントで 31 億ドルに達しました。勢いの良さはまさに全社に行き渡っています。成長プラットフォームは 23%の成長で、内部成長に換算すると 9%になります。ヘルスケア、IT、オイル&ガスも大きく成長しており、セキュリティと水処理部門も拡大を続けています。

会社全体では引き続きインフラストラクチャ・イニシアチブを推進しており、世界的な収益は 20%増になっております。特に中国は 40%成長です。しかし、欧州とアジアでも大きく成長をしています。そして、イマジネーション・ブレイクスルーは、会社全体の内部成長への積み増しを拡大し続けていると判断しております。他にも、目覚ましい業績はあります。非破壊テスト部門は年率 30%の成長を続けており、元々イマジネーション・ブレイクスルーの 1 つであった欧州のコマーシャル・ファイナンス事業は資産が 49%拡大しております。また、先程もご説明しましたが、淡水化事業は 40 億ドルを超える多額な受注残を獲得しています。

このように成長イニシアチブが成果をあげており、今年度下半期と 2006 年度に向かってしっかりした勢いをもたらしてくれるものと考えております。

では、この辺でキースに引き継ぎ、皆様に弊社の財務内容と業績の詳細を詳しくご説明したいと思います。いいかい、キース？

キース・シェリン - GE - CFO

ありがとう、ジェフ。では、受注から始めましょう。受注は GE 全体でたいへん好調で、全社の受注額は 183 億ドル、13%の増加となりました。左側に示しておりますように、主要機器が非常に好調でした。エナジー事業は本四半期 77%の増収で、トランスポートेशनとヘルスケアはともに 2 桁成長です。主要機器受注高の過去 4 四半期分の平均を取ってみますと、第 2 四半期末時点では 66 億ドルになります。受注残は 230 億ドルに達し、15%増となりました。インストール・ベースは拡大を続けています。CSA の受注残も 15%増の 830 億ドルに達しました。このように、インストール・ベースの主要機器の受注が拡大することにより、サービス事業の成長も非常に堅調に推移しています。

中央の欄をご覧ください。サービス件数もますますです。しかし実際には、見かけの数字よりも業績は好調でした。本四半期のサービス事業は 4%成長したことがわかりになると思います。ただ、注意していただきたいポイントが 2 点あります。この数字は比較対照がかなり厳しいものでした。昨年の同四半期が目覚ましい業績だったのです。第 2 四半期が 28%の成長でした。ですから、サービス受注の絶対的な金額では引き続き非常に順調に推移しています。

2 つめのポイントは、収益性の中味です。これは本当にすばらしい内容です。航空機エンジンの商用スベア部品の収益が 1 日当たり 1,540 万ドル。本四半期で 17%もアップしました。また、昨年申し上げましたように、核燃料事業で膨大な受注を抱えておりましたが、これを除くと、エナジー事業は 13%の成長となっていたところです。そういうわけで、6 月の成長率は 6%と控えめになりました。サービス事業の第 3 四半期の見通しも引き続き堅調で、10%成長の見込みです。サービス事業の現状には非常に満足しております。

右側にはフロー事業を示していますが、第 2 四半期は 6%の増収でした。55 億ドルという数字は、本四半期のフロー受注額です。アドバンス・マテリアルズは販売価格が寄与しました。これにより、インフレ分を補って余りある利益が維持できています。そのことはマテリアルズのページに移った時にご説明します。しかしながら、6 月の業績も 5 月を上回りました。6 月は合計で 7%アップしており、この勢いがこのままもう少し大きくなってくればと期待しております。アジアも引き続き非常に順調で、2 桁成長を達成しています。

弊社のような規模の会社が受注額合計で 13%成長を達成するのは、四半期としてはすばらしいことです。驚くべき結果です。総受注額の 2 桁成長は第 3 四半期も継続する見込みです。

今や弊社にとっては、ポートフォリオの品質が焦点になっています。左側に延滞債権を示しておりますが、ご覧のとおり、非常に好ましい状況です。コンシューマー側の延滞債権は約 10 ペーシス・ポイント上昇しています。これは実際には、英国での担保付き貸し付けによるもので、弊社には基本的に損失は生じません。結局、1 年前に対して、コマーシャル側の延滞債権は 23 ペーシス・ポイントになりました。エクイップメント・ファイナンス、ベンダー・ファイナンス、欧州のエクイップメント・ファイナンス、ヘルスケア・ファイナンスなどのポートフォリオではいずれも減少、しかも 2 桁の減少です。このポートフォリオの状況は好ましいものと考えております。

収益の上がらない資産の額も、本四半期は 1 億 2,800 万減少しました。GECAS には運用されていない飛行機が 1 機もありません。また、利回り環境と経済環境は、財務サービス・ポートフォリオの面からも非常に望ましい形で推移しています。

右側に示す弊社の事業ですが、これは主にアート・ハーバのチームで、エクイップメント・サービス事業が高い稼働率と有利な経済状況に恵まれ、本四半期に 86%というたいへん好調な実績をあげました。 そのおかげで価格を引き上げるチャンスが増え、より多くの資産をリースやレンタルに振ることができました。 これにより、堅実で安定したポートフォリオと高い稼働率が維持できています。

損益の面では、ここに数字を示しておりますように、収益が 416 億ドルと 13%上昇しています。 これが報告されている数値です。 第 1 四半期に行った FAS 133 の修正以前の数値を示すコラムもここにあります。 インダストリアル事業が 12 アップ、金融サービスが 12 アップ。内部成長は 8%です。インダストリアル、財務サービスともに基本的に 8%の内部成長を達成しました。 第 1 四半期のインダスリアル内部成長は 8%でした。 第 2 四半期も 8%となり、現在のところは通年でもこの数値になると見通しています。

純益は 46 億ドルと、24%の増益でした。 インダストリアル会社の利益率が 1.5 ポイント以上改善され、15%強に達しています。 第 1 四半期には利益率の拡大についてお話ししましたが、それも達成しました。 1 株当たり利益は 0.44 ドル、22%のアップ。本年度のキャッシュフローは現時点すばらしい実績で、18%増加しています。 インダストリアル事業でみると 24%の増加です。

右側には、税率を示しております。 インダストリアル事業の税率と資本税率がともに本四半期に上昇しました。 去年は、GECS を除く GE の税率は、第 2 四半期が 17%でした。 今年度は 25%と、8 ポイント上昇しています。 ただしこれは、昨年あった 2004 年度の国税還付が今年はなかったことによるものです。 次に GECS ですが、昨年度第 2 四半期の率は 14%でした。本年度第 2 四半期は 16%で、2 ポイントのアップです。 ジェンワースの IPO（新規株式公開）で今年度は損失がなかったために上昇しましたが、その一部は、弊社が今年獲得しようとしている FISC (ph) の代替に絡んで航空機リースの利益により相殺しました。

結果として、会社全体での税率は約 5 ポイントの上昇となりました。 また、税務費用は約 3 億ドル増加しました。 このように業績は好調です。 ジェフも述べましたとおり、弊社の全部門にわたってすばらしい四半期実績をあげました。

ところで、5 月に弊社は本四半期における一時的な項目について少々お話しし、見通しを少しだけ上方修正しましたが、それについてどのような最新の情報をお伝えしたいと思います。 最初の項目は NBC ユニバーサルの子会社についてです。 IAC、つまりインタラクティブコープとは提携を解消しました。 インタラクティブコープと NBC ユニバーサル傘下のヴィヴェンディ・ユニバーサルの提携はすべて解消しました。 また、パクソン (ph) では負債が出ました。 NBC ユニバーサルは、ヴィヴェンディ・ユニバーサル・エンターテイメントに対してインタラクティブコープが保有していた優先株権をすべて償却したのです。 また、ヴィヴェンディ・ユニバーサルの普通株のうちインタラクティブコープが保有していた 5.4%の少数株式を取得し、オーナーシップ構造を単純化しました。

もともと、インタラクティブコープは国庫証券で担保にされたクラス A および B の優先株と、インタラクティブコープの普通株式を所有していたのです。 NBC ユニバーサルは優先株償却の対価に時価を適用したため、本四半期の利益となったわけです。 これにより、GE には税引き前で約 2 億 5,900 万ドル、税引き後で 1 億 2,600 万ドルの利益が出ました。 ところがこの利益は、パクソンへの弊社の持分が減損したことによって相殺され、税引き前で 7,900 万ドル、税引き後で 4,500 万ドル分となりました。 したがって、NBC ユニバーサル・セグメントにおけるこれら 2 つの項目を合計した結果、今四半期の収益に 8,100 万ドルのプラスの効果を得られたということです。

弊社は、第 2 四半期にメドブコを売却するとも発表していましたが、実際に売却しました。 パークシャ・ハザウェイに約 8 億 2,500 万ドルで売却を完了しました。 5 月に弊社は税引き前利益を 7,500 万ドルと予想していましたが、実際には 6,200 万ドルと、当初見積もりを若干下回りました。 また以前の発表では、デリバティブ取引での最終的な市場評価額において 5,000 万ドル未満の影響があると予測しておりましたが、今四半期にオープン・ポジションを処分したため利回りが変動し、最終的な数値は 400 万にとどまりました。

このように第 2 四半期の影響は若干その中味が異なるものの、本四半期への影響に関する 5 月時点での見通しとほぼ一致しております。

それでは、第 2 四半期の業績をまとめてみたいと思います。 ここでは、旧来の基準を採用します。 つまり、組織再構築前の 11 事業ベースです。 今期は明らかにすばらしい四半期でした。 エナジーとトランスポーターションの両部門で幅広い強みが見られますし、これらの業界では景気サイクルが良い方向に向かっています。ヘルスケア、インフラストラクチャー、NBC ユニバーサルも大幅な内部成長、並びに買収やシナジー効果から成果が上がっています。 コマーシャル・ファイナンスとコンシューマー・ファイナンスは、堅実な引き受けと適切なリスク管理が行われ、キャッシュ・ジェネレータも良好な実績をあげています。 このように、

すばらしい四半期でした。ジェフも述べたとおり、11 事業のすべてが 2 桁以上の実質的成長を果たしたのです。驚くべきことです。

ここからは、数ページ分に渡って、事業別の第 2 四半期の業績をご説明します。弊社は優れたキャッシュ・フローを継続的に達成してきました。第 1 四半期にその年度の見通しから親会社支援による借入れを行いました、その負債の支払いが完了し、下半期に GECS の配当を 40% に積み増しすることができました。それにより、下半期の GECS の配当は 18 億ドルになるとわかります。これはほぼ昨年並みです。また、インダストリアル事業のキャッシュフローは下半期に 62 億ドルと、24% のアップです。

インダストリアル部門は通年で 10~15% 成長すると予測しています。キャッシュによる利益とその他の項目から非常に好ましい成果が得られています。株主の皆様には配当と買い戻しの形で 54 億ドルを償還しました。弊社の配当利回りは今でも 2.5% と、非常に高くなっています。下半期に向けても、現時点 40% の GECS 配当は継続する所存です。

次に、右側をご覧ください。キャッシュの概要ですが、当初は 32 億ドルでした。左側から 80 億ドルの CFOA を得ました。これが追加されます。配当を支払いました。株式買い戻しも加速し、第 1 四半期に約 1 億ドル分を買い戻しました。第 2 四半期には約 6 億ドルを実施し、今年度の目標の 30 億ドルの買い戻しに向けて加速させていきます。

次は P&E です。買収と売却はほとんどが第 1 四半期に完了し、その四半期の末にはキャッシュ残高が 17 億ドルとなりました。このようにキャッシュの実績は優れています。インダストリアル事業の純負債も 100 億ドル未満に抑えることができ、キャッシュフローについては強気の見通しを持っています。

では、話題を各事業部門のことに移しましょう。ただその前に、旧来ベースでの第 3 四半期の見通しを簡単に申し上げたいと思います。組織再構築については数ページに渡ってご説明するつもりですが、このページでは 11 事業部門ベースでの見通しをお伝えします。そして、事業の話題の後、新たな 6 事業部門ベースの第 3 四半期見通しをお伝えします。ですから、本日は 2 通りの方法で業績見通しを発表することになります。

第 3 四半期の見通しも、ほぼ第 2 四半期同様です。全般的に業績好調でしょう。今現在、11 事業のうち 10 事業までが 2 桁成長を果たし、エクイップメントその他のサービスでも、事業そのものは上げ潮で、昨年来の資本やその他の GE キャピタル項目もかつての状態ではありません。上半期に見られたこの勢いは第 3 四半期にも継続するでしょう。そこで、現在の事業の業績状況と、第 3 四半期への見通しについてお話ししたいと思います。

まず、アドバンス・マテリアルズですが、本四半期は好調でした。売上が 10%、利益も 60% アップ。数量は約 13% 低下しましたが、価格が 20% 上昇したことが寄与し、FX が 3% のアップで、ここでのレバレッジが高くなっています。本四半期末も好調に終わりました。四半期全体の受注額増は 3% でしたが、6 月の受注額は 8% 増となっています。受注残も数週間分あります。これには、プラスチックが大きく貢献しています。第 1 四半期 (ph) の受注は、6,100 メートルトンで、4 月と 5 月のレベルから 30% のアップです。ジェフから申し上げた経済状況もプラスチック事業に有利に働きました。

実際のところ、この利益の伸びは、原材料の価格上昇よりも販売価格を高く設定できたことにより達成できたものです。このセグメントの一部であるプラスチック事業にとっては、売上は 11% 増でしたが、利益は 80% を超える増益でした。まさに、価格のメリットが大きかったと言えます。本四半期末時点で、約 419ASP でした。数量は減少し、原材料価格は 30% 上昇しました。つまり、数量と価格のトレードオフをうまくコントロールしたため、インフレをカバーできたわけです。その点で、この部門はうまくやったと思います。

アジアは引き続き非常に好調です。第 2 四半期のベンゼンの平均価格は 306 で、30% の上昇です。価格上昇は今も続いています。6 月にベンゼン価格は約 230 まで下落しましたが、7 月には再び 3 ドル以上、上昇しました。先を見通しますと、第 3 四半期も同様の値動きをする可能性が高いでしょう。15% 以上の利益が得られるはずですが、これまで弊社が取った価格対策は原材料のインフレを相殺して余りあるものなので、次の四半期も業績は好調で、見通しも良好です。

右側のコンシューマーおよびインダストリアル部門も、やはり好調でした。この部門で報告されている数値は、2% の増収と 11% の増益です。しかし、ご存じのように、モーター事業のいくつかは昨年、売却しました。このモーター事業の売却分を除くと、この部門はたいへん優れた結果を出しています。増収が 7%、増益は 28% にもなります。明らかに、広範な収益成長を達成しています。売却したモーター事業を除くインダストリアル事業全体の売上は 12% 増加しました。V 供給事業は 8% アップ、家電事業は 6% アップでした。

高級品では少しシェアを広げました。高級家電部門の成長ぶりはい言いますと、業界平均が約 4 に対して、モノグラムは 34 アップ、プロフィールが 7 アップ。原材料のインフレを上回る価格の実現の面でもこの部門は実績をあげました。本四半期、この事

業では価格指標が 1.7%上昇したのです。それが約 6,000 万の利益となり、2.6%分は一部相殺されています。ところが、主に鉄鋼で原材料価格の上昇があり、約 4,700 万の利益が、...損なわれました。しかし、このチームは良い仕事をしており、第 3 四半期も同様の状況が見込まれます。来期は適切な価格対策で原材料インフレを相殺する以上の実績をあげ、再び 10~15%の増益に戻るでしょう。

インフラストラクチャー部門に移りますと、売上は 43%増、営業利益は 25%増となっています。これは主に買収により達成されました。セキュリティ部門は大幅に成長しました。受注は 100%を超える増加で、実質的には 13%以上の伸びを見せました。InVision と Edwards の買収も寄与しています。国土防衛事業の第 2 四半期は好調でした。受注額が 36%も上昇。TSA から、爆発物検知システムで 5,000 万ドルを超える受注を獲得しました。

水処理部門も受注額が 38%増と好調です。アイオニクスの事業もうまくいっており、統合もまったく順調です。ウォーター・サービス・モデルを構築するための投資も継続します。世界的なサービスと新製品に投資しているため、水処理部門の利益は減少していますが、いずれ、これらの投資が利益を生むようになるでしょう。ですから、第 3 四半期も同様の状況で、水、サービス、パニッック、センシングいずれの分野でも営業利益は横ばいか、やや改善されて 40%強と、堅調な業績になると思います。このように、良い四半期となります。

コンシューマー・ファイナンスも好調な四半期でした。このチームは実に安定して実績を出しています。資産が 28%増で利益は 23%増。主に中核事業の成長に支えられたもので 23%のうちの 14%分がそうです。買収による増益は 7%で、証券化はやや上昇して 1 億 2,300 万から 1 億 3,800 万へと 2%増になりました。

地域別に見ても、たいへん堅調です。特に米国部門の資産と収益がともに 30%増となったのは喜ばしいことです。中核事業がしっかりと成長し、資産の品質もよく、延滞債権もきちんとやっています。欧州では、資産が 9%増、収益は 15%増です。英国市場が振るわなかったものの、欧州全体では好業績をあげました。英国以外の欧州諸国で中核事業が非常に好調だったためです。

アジアでは、オーストラリアでの買収で実証されているとおり、資産が大幅に拡大し、収益は 24%増加しました。オーストラリアと韓国での買収が貢献しています。日本も安定した実績で推移しており、数量的には減少したものの、それを上回る損失の減少により、6%の上昇です。堅実な資産品質もそのまま継続しており、延滞債権は 3 ベースポイント減少、無収益ポートフォリオは横ばいでした。このように、業績は好調です。このレバレッジを考慮すれば、この事業は将来、継続的に 2 桁成長できる潜在能力があると考えております。今の見通しに基づき、現在の資産の伸びや世界的な事業の好調さを考えると、第 3 四半期には純益で 15~20%の成長が見込めるでしょう。コンシューマー事業の現状には非常に満足しております。

コマーシャル・ファイナンスもまた好調な四半期でした。やはりポートフォリオ全体に渡って見るべき部分の多い四半期でした。資産は 4%増、収益は 25%増で、そのうち 22%分は中核事業の成長です。資産の品質も向上し、税務上の利益もありましたが、これについては後で説明します。買収による影響は小さく、コマーシャル・ファイナンス・セグメントで証券化が低下したことで相殺されました。

資産の成長は 4%ですが、これはポートフォリオの選別を継続的に行っているからでもあります。不動産ポートフォリオを見ますと資産が 3%減少しております。有利な市場に売り出すことで、高い流動性が確保されています。利益はやや減少して 2%の減益でしたが、不動産ポートフォリオではプラスでした。GECAS は今四半期好調で、純利益が 39%もアップしました。米国雇用創出法により約 9,000 万ドルの利益を得ましたが、FISC 返却による減損により、そのうちの約 7,000 万ドルは相殺されました。個別部門で最も大きな成果だったのは U.S. Air で、税引き後利益が約 5,300 万あったことでしょう。アメリカウエストとの合意で、34 機の 737 が弊社の取り分になり、その利益が本四半期に計上されています。

前にも述べましたが、運用されていない飛行機は 1 機もありません。来四半期もやはりそうです。2005 年の新規分とリース切れ分は 100%が既に受注済みで、2006 年も 80%を超える受注を得ています。市場は、非常に賑わっています。リース料金が上昇し、航空機への需要も増えています。

中間市場セグメントは、非常にすばらしい四半期でした。数量的にかなり拡大し、14%増となりました。販売面でも好調でした。コマーシャル・ローンとリースの資産が 5%増加し、収益は 30%上昇しました。ポートフォリオの改善からも大きなメリットがありました。損失率の低いポートフォリオの品質がそれです。延滞債権は前年比 30 ベースポイント低下し、このセグメントの無収益部分は 11 ベースポイント下がりました。貸し倒れは前年比やや増加しておりますが、これは弊社が第 4 四半期に資金提供した U.S. Air へ会社更生法が適用されたためであり、この分を除くとほぼ横ばいです。来四半期も業績好調は続く見込みで、堅実な運用と資産品質で第 3 四半期には 10~15%の増益を見込んでいます。

右側にはインシュアランス事業を示していますが、インシュアランス・ソリューションズが暴風雨の影響を被った昨年に比べると、大幅に改善されたことは明白です。2 億ドルを超える収益改善は、基本的に 2 つの項目が主因になっています。第一に、インシュアランス・ソリューションズが 1 億 9,600 万と、38%の増益でした。これには前述のメドプロの売却益が含まれます。メドプロを除くとインシュアランス・ソリューションズはほぼ横ばいですが、事業を縮小していることを考慮すると、なかなかの業績です。

弊社は、このような戦略を引き続き推進し、採算のとれない部門からの撤退と投資の削減を進めていきます。メドプロの売却により、30 億ドル弱の資産が手に入りました。このように、事業を縮小して中核事業に集中していきます。

2 つ目の影響は、ジェンワースです。ご記憶のことかと思いますが、昨年、弊社はジェンワースの IPO（新規株式公開）で損失を出しました。今年は持分が少なくなりましたから、収益も減少しています。そのためジェンワースの最終的影響は約 1 億 7,500 万ドル増でした。この 2 つがインシュアランス部門成長の 2 大要因ですが、ジェンワースの純益に対する弊社の割当分である 8,600 万が本四半期に計上されています。また、ジェンワースにまだ所有している 52%の持分にはかなりの「埋め込まれた」利益があり、現在の計画では今後も株式売却を体系的に進めていく所存です。

第 3 四半期も非常に業績好調で、40%の増益と予測しています。先ほど申しましたとおり、昨年第 3 四半期にはハリケーンという大きな災害もありましたから、この点についても考慮する必要があるでしょう。しかし、今のところは、第 3 四半期もこのセグメントは非常に好調だと予測しております。

次は NBC ユニバーサルです。業績数字は予想をやや上回っていると思います。主に、先程もお話ししました IAC との提携解消が主な要因です。数字を挙げながら、この部門の影響をご説明しましょう。このネットワークのプライムは厳しい状況です。今期は視聴率が約 17%低下し、昨年の第 2 四半期の「フレンズ」や「フレイジャー」の最終回のようなことがありませんでしたから、ますます厳しい比較になっています。2005 年のプライムのアップフロント（広告枠の前売り）の売上は 2004 年を下回りました。そのことについて、詳しくご説明したいと思います。いくつか数字が並んでいますが、昨年のプライムの業績について言いますと、アップフロントでの広告売上が約 27 億でした。今年は同一ベースで 20 億、しかし売上は約 5 ポイントの減です。そのため、その差額の 2 億から 2 億 5,000 万を次のシーズンで売り切らなければなりません、それをうまく活用するつもりです。

第 2 四半期には、このユニバーサルの業績の傾向と現在のようなばつきの大きい売上変動の流れを打破しようと取り組みました。より良いビジネス・モデルができたと考えております。そのビジネスモデルによってもたらされた、NBC ユニバーサルの業績と能力に、大変満足しています。主要テレビ局とテレビ制作会社については、5 月の実績が非常に厳しく、弊社のプライドと地位に影響するほどでした。本四半期を見ていただきますと、IAC を除く NBC の利益の 33%がそうですが、この部分は約 30%もダウンです。この事業の他の部分では良いニュースもあります。本当にすばらしい成果です。映画と DVD が引き続き非常に好調で、100%を上回る伸びを見せています。エンターテインメント・ケーブルが 100%以上のアップです。DVD の売上については、様々に書き立てられてプレッシャーもかけられてきましたが、DVD の販売は弊社の計画を 6%上回りました。これは、まさに期待通りの結果だと考えており、これからますます進んでいく所存です。それに、IACI との提携解消による利益があり、本四半期に税引き前で約 1 億 8,000 万の利益を計上しました。IAC とパクソンの影響を除きますと、NBCU の営業利益は 4%上昇したことになります。

資料の先に進んで、第 3 四半期についてお話ししますと、ニュース、ケーブル、映画およびテーマパークはどれも業績好調が継続します。また、第 3 四半期は比較条件がもっと有利になります。覚えていらっしゃるでしょうか、昨年はアテネオリンピックがありました。そのため、営業利益は 15~20%アップし、映画とケーブルも業績好調が続くはずで、このような見通しを期待しております。

次に、スライド右側のヘルスケアを見ていきましょう。このチームも堅調な四半期でした。実に全体的な好調ぶりです。売上をご覧ください。12%の増収です。販売数量の増加によるものです。数量が 13%アップ、価格は 3%ダウン、FX から若干の利益がありました。営業利益は 15%増益。市場の中でも優れた業績です。エクイップメントの受注が好調で、昨年の第 2 四半期に比べて 16%も増加しました。現在、よく売れている製品を見てみますと、CT が世界的に受注を 71%も伸ばしました。特に VCT がけん引しており、158 台の受注を獲得しました。受注残も合計で 224 台になりました。MR も好調な四半期で、全世界で 27%成長しています。けん引役は高解像度 MR で、185 台の受注がありました。受注残も 222 台となっています。監視装置と心臓医療機器も 23%増です。超音波とバイオサイエンスはともに 9%のアップ。市場の中でも実に優れた業績です。

地域別に見ても、非常に業績好調です。米国は 11%アップ、欧州は 12%アップ、アジアは 9%アップ。世界全体でバランスよく成長しています。事業部門別に見ますと、バイオサイエンスは今四半期の業績がよく、売上が 9%増、営業利益が 13%増と、主に医療診断とタンパク質分離の分野での強みが貢献しました。医療診断は 15%のアップですが、これは、特許製品の業績が好調

で、市場の拡大と浸透率アップにより 23%以上も成長したお陰です。タンパク質分離も好業績で、18%成長を達成し、この両部門はどちらも将来が非常に有望です。

第 1 四半期にお話ししましたバイオサイエンスの粗利益率は、10%から 18%になりました。売上の拡大に合わせて期待したとおりのかさ上げができたわけです。今後の見通しも非常に有望です。

ヘルスケア技術も好調で、売上は 13%増、営業利益も 20%増でした。第 1 四半期に獲得した受注からかなりの利益を得たうえ、第 2 四半期にもさらに受注を獲得しました。CT の販売が 37%増加しました。VCT を 124 台納入し、超音波の販売は 22%増、ヘルスケア IT は 19%増です。このように、幅広い強みがあり、ヘルスケア事業も好調で、将来の見通しも有望という事から、第 3 四半期は営業利益で 15%の成長を見込んでおります。このチームの現状についても、たいへん満足しております。

トランスポーターションも好業績でした。ご覧ください、売上は 9%増、営業利益は 11%増です。利益の成長は主に商用エンジンのサービスにけん引されたものです。航空機エンジン・チームは非常に健闘しました。売上 7%増、営業利益 18%増という成果は、商用部門とサービスが主なけん引役です。商用スベアのレートは以前、1 日に 15 4 と申し上げていましたが、本四半期の売上は 1 日当たり 14 4 と、11%上昇しております。そういうわけで、スベアの受注残も少し拡大しました。

設備納入も業績好調です。商用エンジンの出荷高が 4%増加しました。機関車も好調で 5%のアップ。市場でも優れた四半期実績です。250 台の受注を引き継ぎ、通年で見ると、機関車事業の現時点での台数は昨年 800 に対して 850 以上になるはずですよ。今後も好調に推移するでしょう。新たな動きもありました。EVO 機関車の出荷が伸び始めたのです。第 1 四半期は 13 台でしたが、第 2 四半期には 193 台まで増加しました。割高な立ち上げコストと原材料のインフレにも対処しています。本四半期には約 5,000 万ドル分が圧力となってかかってきましたが、その分は、第 3 四半期、第 4 四半期に取り戻します。EVO の出荷は今後も増え続け、コスト・カーブも下がり、下半期には状況はかなり好転するでしょう。

第 3 四半期の見通しはと言いますと、好調さの継続と、サービスおよび設備納入の業績から、営業利益で 10~15%の増益を見込んでおります。この事業チームもたいへんよくやっています。

最後に、特筆すべきこととして、ここ 10 四半期ずっと減益が続いていたエナジー事業が電力バブルを乗り切ったことは、喜ばしく思います。プラスに転じたばかりではありません。2 桁成長なのです。ジョン・ライズと彼のチームの健闘を讃えます。この部門の業績には驚くばかりです。売上は 10%アップ、営業利益も 10%アップ。利益はやはりサービス分野から生まれており、発電事業は若干の黒字でした。この事業の本四半期の利益は約 3,500 万です。

市場は非常に好況です。エナジー受注額が 48 億ドルと、29%も増加しました。主に発電が貢献したものです。ガス・タービンの販売が昨年の 17 台に対し、21 台になりました。これらのほとんどが世界各地からの受注です。すべて米国以外からの受注でした。風力の受注は 300%増の 5 億ドルを超え、300 台以上が売れました。今後も業績好調は継続します。ガス・タービンの第 2 四半期は、販売台数が 29 台から 27 台にと、2 台の減少でした。サービスも業績好調です。発電サービスは 16%の売上増、35%の営業利益増となり、インストール・ベースを構築したことへのメリットが引き続き得られています。1990 年代後半および 2000 年代の初めに設置された設備がサービス時期に入り、そこから利益が入ってくるわけです。

オイルおよびガスにいきましょう。ここも好業績で、受注額が 10 億ドルと 33%もアップし、これで 3 四半期連続して受注額が 10 億ドル以上の拡大を続けています。業績もなかなかです。売上は 7%増で営業利益も 21%増。風力事業も四半期売上が 4 億 2,700 万に上り、昨年のレートの 3 倍、単価が 3 倍になったうえ、300 台以上が出荷されました。この好調さは今後も継続すると見ています。風力の受注残もかなりあり、これらは第 3 四半期と第 4 四半期に出荷される予定です。第 3 四半期の動向については、今の好調さが継続できると考えており、この事業の枠全体で 10~15%の営業利益の成長を見込んでいます。

以上が、事業の概要です。それでは、ジェフの方から組織再構築についてご説明したいと思います。その後、再び私の方から新しい基準による第 3 四半期の見通しをお話しします。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ありがとう、キース。さて、ご覧のページは、6 月末に皆様にお見せしたものです。これが、現実になりました。チームを整備し、人材も配備し、既にスタートして運営中です。これら 6 つの事業部門とそれをさらに細分化したものが、今後皆様にご報告するセグメントのすべてになります。今一度、なぜこれを実施したかをご説明しますと、この組織再構築が事業のフロント・エンドを手助けし、特にインフラストラクチャー市場での成長力を強化すると考えているからです。

ここに示す 6 人のトップ・リーダーだけではなく、彼らの下に属する他のリーダーも配属しています。このようにして、リーダーシップの移行が適切に、とてもシームレスな方法で行えたと確信しております。この移行はすべて完了し、新しいチームも整備され、実際に前に進んでいるところです。

長年 GE キャピタルで維持してきた強力なリスク管理原則はすべて継承しました。すばらしいパイプラインもそうです。そのうえに、こうしてチームを整備した結果、2006 年度以降には 3 億ドルの経費節減が見込めます。つまり、組織の単純化なのです。フロント・エンドをより効果的に機能させ、会社全体の潜在能力を引き出すというすばらしい効果を上げると考えています。投資家の観点から見ても、環境は整ったと思います。実にシームレスに、かつ迅速に実行した事で、会社のあちこちで既に成長が推進され、コストが削減されています。

では、財務の話に戻りましょう。キース、よろしく。

キース・シェリン - GE - CFO

わかりました。次は、新しい基準による第 3 四半期のまとめです。ジェフが申しましたとおり、前のページに記載している財務報告と、ビルがお送りした情報について、これまでよりも詳しい情報と事業内容をご報告します。ジェフが前のページでお見せした詳細のすべてをご覧ください。

見直しについては、新しい基準に基づく暫定的なものです。第 3 四半期中に、予測し直すための過去の財務データをご提供するつもりですが、そのモデルをまとめるにあたってはビルとジョアンナが役に立ってくれるはずです。

ジェフも先程ご説明しましたが、通年での低価格帯を 1.78~1.83 ドルから 1.80~1.83 ドルに上方修正しました。第 3 四半期の見直しをお知らせするのはこれが初めてです。右側に示すとおり、売上は 410~420 億で 8~10% の増収、利益は 46~47 億で 12~15% の増益、1 株当たり利益は 43~44% で、13~16% のアップです。FAS133 修正以前の影響はほとんどありません。第 3 四半期への影響は微々たるものです。

このように、組織の単純化で透明度を高めていきます。これは、皆様が必要とされる情報を弊社からご提供するためにできることであろうかと思えます。これで皆様には弊社をさらにご理解いただき、先程も申し上げましたが、オイル、ガス、水といったことを皆様に開示しているように、この 6 つの事業構造のもとで情報をさらに詳細にご提供する所存です。

修正後の財務予測は 9 月中旬に発表する予定ですが、11 事業ベースからこの新しいベースへの移行をご理解いただくために解説表をご提供します。また、その時には皆様が資料を理解するご支援もいたします。第 3 四半期の見直しには自信を持っています。ジェフ？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

すみません、今までの要点の確認をさせてください。弊社の当初見直しは 1.76~1.83 ドルでした。本日の時点では 1.80~1.83 ドルです。つまり、通年で 12~14% のアップですね。事業についてお話ししますと、アドバンス・マテリアルズでは激しい変動にさらされましたが、インフレを克服することができ、コストの大きさ、インフレ、価格の観点から良好な勢いが得られているのではないかと思います。

航空機エンジン事業とレール事業は非常に良いサイクルにあり、本年度下半期も勢いが強く推移すると考えております。コンシューマー・ファイナンスとコマーシャル・ファイナンスは現状をうまく乗り切っており、バランス・シートの面から見ても優位なポジションにあります。今年度下半期、さらには来年度にかけて、成長の推進役になってくれるでしょう。コンシューマー・インダストリアルも非常に業績がよく、明確な戦略で運営されています。

エナジー事業は予測通りです。ここ数年は変動が大きかったようですが、現時点では将来に向かって強い勢いを感じております。ヘルスケアも市況が少し好転しておりますが、本当の技術導入はいよいよこれからというところです。インシュアランスもご承知のとおりで、営業活動も、ジェンワースの一件に関しても、戦略を遂行し続けるオポチュニティについても、改善されていると思います。

NBC ユニバーサルではエンターテインメントの課題に直面する見込みですが、会社全体の力を合わせてそれに対処します。NBC ユニバーサルのビジネス・モデルは改善されたと考えており、過去被ってきた変動の大きさも克服されることと思えます。

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

本年度下半期と 2006 年度を見通しますと、インフラストラクチャーの受注率が非常に好調な点に期待しております。これによりサービスもけん引され、好調に推移するでしょう。営業利益の拡大は始まったばかりで、まだまだこれからだと思います。

インシュアランスの観点では、やはり、上向きの勢いがあり、ジェンワースについても過去 12 ないし 15 ヶ月で得られた IPO（新規株式公開）のようにプラスの利益があると予測しています。良好な資産品質、非常に力強いキャッシュフローの成長により、総資本の成長分は 30%を超えることになるでしょう。このように弊社の見通しは非常に有望で、経済状況から見てもこの計画を実現するうえで必要な勢いが十分に得られると確信しております。

要約しますと、2005 年度は見通しは良好、売上の内部成長は 8%、増益は 2 桁、EPS とキャッシュフローの成長、そして EPS は予想範囲の上限に達する見込みです。弊社の現状と全体像を考えていただければ、大きな力が私たちを後押ししてくれていることがおわかりになると思います。ポートフォリオも良好な状況だと思います。弊社は常に買収と会社の強化を追求しておりますが、現在の経済状況を見るにつけ、なかなかうまくやっているのではないかと思います。

これまでお話ししました事業分野、つまりサービス、成長プラットフォーム、グローバル化、これらはすべて表明しておりますとおりにトップレベルを推進しており、キャッシュフローを確実に加速しております。GECS 配当を 40%以上確保したうえで、業界の中でも良好なキャッシュフローを維持しているのです。ですから、財務的なフレキシビリティは高くなっています。弊社の状況を考えてみてください。幅が広く、奥も深いと思われませんか。様々な力が今の強い勢いを与えてくれています。バランス・シートが非常によく、格付けも AAA であるうえ、これまでご説明したとおり、資本効率の高いビジネス・モデルを備えています。次世代の組織とリーダーシップも整備し、第 2 四半期の成果だけでなく、本年度下半期と 2006 年に向けての見通しにも自信を持っております。

それでは、ビル、これで切り上げて、質問をお受けしましょう。

ビル・ケアリー GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ、どうもありがとうございました。レイチェル、これから質問を受け付けます。始めていただけますか。

質疑応答

オペレータ

（オペレータからの説明）クレディ・スイス・ファースト・ボストンのニコル・パレントさん。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

皆さん、おはようございます。ジェフ、まず世界経済環境の背景についてお伺いしたいのですが、北米での動向に関するご意見を聞かせていただけますか。業績が低迷し、その後 6 月に回復したとお考えですか。また、欧州では 6 月に PMI が好転したと思われるのですが、そのようにお考えですか。最後に、中国における成長が停滞している点に関して、考えをお聞かせください。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ニコル、確かに 6 月は 5 月に比べて上向きであったと思います。しかし、5 月も、この 12~18 ヶ月の間に見てきた世界経済の動向の中に溶け込んでいたように思います。要するに、堅調に成長してきたと考えています。欧州における弊社の事業は、常に大変好調でした。そして、先ほど申し上げたように 6 月は 5 月よりも上向きでした。しかし、本四半期における事業の動向は、結局想定範囲内であったと考えています。

また、中国についてですが、アドバンス・マテリアルズの受注率は引き続き好調です。インフラストラクチャー事業の受注においても高い利益を上げています。中国では十分な数の航空機を確保できないのです。根本的に、737 や A320 などの需要が供給を上回っているのが現状です。したがって、中国での業績もそれほど低迷しているとは思いません。

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

それから、ニコル、アドバンス・マテリアルズ部門についてですが、本四半期はおそらく市場シェアが増加していません。これは、コンシューマー&インダストリアル部門についてもある程度当てはまります。増加していない理由は、弊社が価格と利益率を誘導していることです。総じて経済は非常に堅調であると言えます。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

ありがとうございます。インフラストラクチャー事業について1つ補足質問があるのですが、よろしいですか。第2四半期の内部収益の成長についてお聞かせください。第2四半期の収益率について、第1四半期に40%と予想されていたと思います。実際には25%でした。これも非常にすばらしい数字ではありますが。これは、水処理事業への投資によるところが大きいのでしょうか。この第2四半期の投資はどれくらいでしたか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ニコル、それで1つの質問ですか。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

すべて関連した内容ですよ。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

そのセグメントの本四半期の内部成長を見ていただくと、収益については水処理部門が約5%、セキュリティ部門が6%でした。セキュリティ部門の営業利益は約15%でした。水処理部門では営業利益の合計が減少し、1,400万ドルと報告されています。あなたがおっしゃるサービスインフラストラクチャーへの投資の影響は、そのような感じです。サービスインフラストラクチャーへの投資は、1回ごとの取引ベースで化学製品を販売することから、顧客に長期的なサービスを販売することを目指した長期サービス契約モデルを構築していくために引き続き行っています。弊社はこの投資について満足していますし、利益も得られるでしょう。しかし、このような投資によって確かに影響はありました。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

ありがとうございます。

オペレータ

スミス・バーニーのジェフ・スプレグさん。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー - アナリスト

ありがとうございます。皆さん、おはようございます。GE キャピタルについて考える上で、グリーンспанの難問についてご意見を聞かせていただけますか。イールド・カーブが完全にフラット化し、さらに逆転したとすると、GE キャピタルはその事業の資金調達の際に利回りを変動させるだけで済むのでしょうか。また、何か他の御社にとって大きな推測があればお聞かせください。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ジェフ、今後の金利の変化について見ていく上で、まずは弊社が資金調達の原則を貫き通すつもりであることをお話します。弊社では毎日顧客と値付けを行っており、最適な収益率とリスク調整後スプレッドを確保し続けることができますようにしています。これらは、本四半期にコマーシャル・ファイナンスでもコンシューマー・ファイナンスでも拡大しています。ですから、短期金利が上昇していても、市場における慎重な管理を続けています。

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

資金調達について動向を見続けていますが、この金利環境でより長期的な資金調達を行うことができるでしょうか。弊社では評価を続け、資金調達のバランスを最適化し、最大限の利益率を得てリスクを軽減します。そして、それによって実際にチャンスが生まれるのです、ジェフ。弊社では、連邦準備制度の動きを見守っています。弊社は実質的な予測は立てていません。グリーンズパン氏と連邦準備制度の経済に対する見方やインフレに対する見方、世界経済に関する推測について見守っていきます。そのため、弊社では実際に予測は立てていないのです。弊社は、与えられた環境で事業を管理していきます。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー - アナリスト

あなたのコメントについて 1 つ補足質問をさせてください。御社の成長が少し停滞気味であった理由についてお話しいただきましたが、新しい機器の受注の急成長に対するサービス事業のシェア率について詳細をお聞かせください。シェア率は上がるとお考えですか。その事業から何か新しいものが得られるのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

サービス事業では、新しい機器が好調に伸びています。CSA 事業を見ていただくと、エナジー事業については、ガスタービンの約 40%を CSA でカバーしています。航空機エンジン事業については、世界の商用エンジンフリートの 20~35%を CSA でカバーしています。レール事業については、55%をマテリアルサービス契約でカバーしています。弊社は多くの顧客に選ばれています。顧客が順調に事業を遂行できるように、予測可能なコストを提示したり、生産性、稼働時間または利益率を保証したりする能力を提供したいと考えています。これが選ばれている理由です。

そういうわけで、この業績には満足しています。先に申し上げたように、CSA の受注残は 15%増加しており、サービス事業は順調で、顧客のニーズをつかんでいます。これは非常に重要です。この事業に関してはすべてが好調だと思います。ジェフ、あなたは（複数の同時発言あり）サービス事業の会議で……。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

はい。弊社では四半期ごとにサービス事業のリーダーと会議を開きます。つい先週その会議に出席しました。昨年の第 2 四半期を見ていただくと、軍用スベア部品の注文が少なく、核燃料の需要が一時的に増加しました。そのことを除いて考えていただくと、世界的にもすばらしいシェア率であるとお分かりいただけるでしょう。中国における業績は、エナジー事業については四半期ごとに増加しています。また、CSA の受注残は 15%増加しています。

弊社はこの事業モデルに満足していますし、インフラストラクチャー事業における受注が多いことがサービス事業の巻き返しを示しており、喜ばしく思っています。この事業モデルは大変堅調であると思います。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー - アナリスト

ありがとうございました。

オペレータ

ゴールドマン・サックスのディーン・ドレーさん。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。中核収益の目標 8%について再び取り上げたいと思います。ジェフ、これは 12 月にあなたが定めた数字で、現在 1 年の折返し地点となりましたね。残り半年についての見通しについて話していただけますか。それで 2006 年の動向がある程度分かると思うのですが。また、下半期にこの数字を左右する要因は何でしょうか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ディーン、それではまず GDP について考えてみましょう。世界の GDP は 2~3%増で、我々が進めてきたポートフォリオの強化によって、おそらくその 2 倍の成長が見込まれます。ですから、これで約 6%、それに加えて、サービス事業モデル、グローバル事業モデル、成長プラットフォーム事業モデルなどを実行することでもう 2%を見込んでいます。GDP を想定して事業推進について考えていただくと、我々のすべての計画と対応していて、非常に分かりやすいと思います。我々は遂行中のポートフォリオ事業について満足のいく成果を上げていますし、成長プラットフォーム事業とヘルスケア事業についても成果を確認していただけるでしょう。

受注残などの様々な要因に基づくサービス事業の収益成長は、10%増となるでしょう。これは、インダストリアル事業モデルの 3 分の 1 程度です。中国、東欧などにおける世界全体の収益ベースで見ていただくと、弊社はトップクラスのポジションを確保していると思います。

トランスポートेशन、エナジー、水処理、セキュリティ、などのインフラストラクチャー事業について考えていただくと、これらの事業では 10%増の内部収益成長が可能であると見込んでいます。ヘルスケア、コンシューマー・ファイナンスでも、それに近い収益成長が可能でしょう。また、アドバンス・マテリアルズやコンシューマー&インダストリアルなどの事業でも、1 桁半ばの成長が見込まれます。ご想像のとおり、これが弊社内部で重点的に追跡を行っているもう 1 つの内容です。しかし、その構造は、GDP が 3%増でポートフォリオによってその 2 倍となり、サービス、グローバルゼーション、成長プラットフォームなどの推進中の様々な事業によって 8%超の成長が見込めるという図式であるとお考えください。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ジェフ、そのことに関連して伺いたいのですが、第 2 四半期の成長プラットフォーム事業は、内部的に約 9%増となったということでしたよね。経済背景とインフラストラクチャー事業に対する期待を考慮すると、10%近くの成長を予想していたのですが。これは期待はずれといったところでしょうか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

我々も 10%の成長を目指しています。毎四半期その数字を達成できないかもしれませんが、これらの事業に関する動きについては好ましく思っています。これは収益を示す数字ですが、オイル&ガスなどを見ていただくと、受注額は 30~40%増、収益は 7%増となっています。ですから、着実に地歩は固まりつつあるので、そのうち成果が目に見えるでしょう。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ありがとうございました。

オペレータ

モーガン・スタンレーのスコット・デーヴィスさん。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

おはようございます。自社株買戻し計画について少しお伺いしたいのですが。本四半期で約 7 億ドル相当の株を買い戻されたようですね。基本的に御社の株価が低迷していたことを考えると、本四半期にはもっと多くの株を買い戻されるのかと思っていたのですが。株買戻しのタイミングと戦略について少しお聞かせください。これから 3 年にわたって 150 億ドルの株を買い戻すための考えについて話していただけますか。

キース・シェリン - GE - CFO

はい。我々はタイミングを計っているわけではありません。毎日着実に自社株買いを進めているのです。弊社では、下半期に約 23 億ドルの買戻しを行う予定です。第 4 四半期には、四半期ベースで年換算 50 億ドルペースになります。また、弊社では株

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

は有効な投資だと考えています。3 年間で 150 億ドルを投資することになると思いますが、それを達成するためにペースアップしています。基本的に年内には発行済み株式の所有を安定させ、来年には従業員持株制度以上に買戻しのメリットが享受できるでしょう。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。キース、おそらく私が聞き逃してよくわからなかったのですが、税率が上がった理由についてお聞かせください。また、下半期と来年の税率についても聞かせていただけますか。

キース・シェリン - GE - CFO

はい。まず、インダストリアル事業について税率が上がった理由ですが、弊社は昨年第 2 四半期に国税庁と大規模な合意に達しました。この合意によって発生した給付金により、支払う必要のなかった税の不足分に対する利子が生じました。国税庁との合意は、約 10 ポイントの増税でした。今年はそのような事情がなかったので 8 ポイントの増税となっています。

キャピタル部門の増税は、昨年はジェンワースの IPO（新規株式公開）で損失が生じたためです。これが繰り返されることはありませんでした。昨年、この損失は弊社の税率に多大な影響を及ぼしました。今年は、米国雇用創出法関連で、海外の航空機事業の移転による軽減がありました。したがって、増税は合計約 2 ポイントとなっています。税率は IPO（新規株式公開）の影響で大きく上昇し、その後米国雇用創出法によって少し低下しています。ですから、合計 2 ポイント増です。

下半期に関しては、基本的に、会計上の理由で本四半期の税率をその時点での年間の見積もりとする必要があります。現時点では、インダストリアル事業の税率は約 25%、キャピタル部門の税率は約 18%と見積もっています。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

ありがとうございました。

オペレータ

JP モーガンのスティーブ・トゥサさん。

スティーブ・トゥサ氏 - JP モーガン - アナリスト

おはようございます。第 3 四半期の展望について 1 つ質問があります。聞き逃してしまっていたのかもしれませんが、インシュアランス事業で大きな損失を被ったとおっしゃいましたよね。その事業に対する今後の影響について詳しくお話しいただけますか。

キース・シェリン - GE - CFO

はい。昨年第 3 四半期にフロリダが大型のハリケーンに見舞われたことは覚えていらっしゃいますよね。確か 5 つの嵐に襲われたはずですが。昨年第 3 四半期のインシュアランス・ソリューションズ事業の損失は、4,000 万ドルにのぼると報告されました。

スティーブ・トゥサ氏 - JP モーガン - アナリスト

お気の毒に。それで、今年は今のところ嵐による被害はありませんよね。

キース・シェリン - GE - CFO

はい、そのとおりです。インシュアランス・ソリューションズ事業チームが、今年のこれまでの様子から偶発的な大災害の対策計画を現在策定しています。

スティーブ・トゥサ氏 - JP モーガン - アナリスト

最後に、主要な事業、特にエナジー事業について伺います。最初の年間予想で第 3 四半期の見通しを考えると、エナジー事業の下半期は少し負担が大きくなりそうですね。エナジー、トランスポーターション、ヘルスケアといった事業の年間目標は、収益や利益の見通しから変更されるのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

いいえ、変更はありません。申し上げたように、エナジー事業についてはかなりの低迷状態であったのは確かです。第 1 四半期も最低ラインから始まりました。第 2 四半期には上向きに回復し、2 桁成長を達成できました。この成長は継続中です。したがって、変更はありません。

スティーブ・トゥサ氏 - JP モーガン - アナリスト

では、今年のエナジー事業の営業利益目標は 32 億ドルのままということですか。

キース・シェリン - GE - CFO

それが弊社の目標です。

スティーブ・トゥサ氏 - JP モーガン - アナリスト

ありがとうございます。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

エボリューションエンジンのコストの適正化などについてキースがお話しした内容を踏まえると、ヘルスケア事業もトランスポーターション事業も下半期に成長するのではないかと思います。ですから、下半期には、すべての事業においてすばらしい成長が期待できるでしょう。

オペレータ

バンク・オブ・アメリカ証券のドン・マクドゥーガルさん。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

皆さん、おはようございます。エナジー事業とその利益率に注目したいのですが、本四半期では 15.4 であったと思います。少し前まではこの事業では利益率 20%を得られると考えていましたが、事業モデルが少し変わったようですね。従来の機器の売上ではあまり収益が上がっていません。しかし、今後数年にかけてのこの事業について考える上で、これは 10%半ばの利益率の事業だと考えるべきでしょうか。それとも、10%後半やかつて実現していた 20%の利益率に戻す方法があるのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

その高利益は、バブルと 90 年代後半から 2000 年代初めにかけてガス供給装置で得た利益に伴うものだったと言えます。機器によって高利益を得るには最高の環境であり、さらにサービス事業モデルは当時まだあまり成熟していませんでした。現在の状況を考えると、発電事業や大規模設備事業はおそらく採算ライン近くかまあまあの利益率となると捉えています。チームでうまくその管理にあたっています。

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

そして、この事業における利益成長は、サービス事業を拡大していくことで向上し続けていきます。ですから、利益は向上すると期待しています。利益率は毎年 1 ポイント上昇すると予想しています。ドン、今後数年における、その上昇の上限については予想できません。しかし、利益は必ず向上すると期待しています。サービス事業は拡大しており、オイル&ガス事業も、機器とサービス双方の分野で高い利益を上げて成長し続けています。

ですから、我々も皆様と同じ考えです。本四半期は、おっしゃったとおり、約 15.4 を予想しています。これは昨年並みです。今後 18 ヶ月から 2 年にかけて、利益は向上すると期待しています。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

毎年 1 ポイント上昇というのは、フレームワークといったところですか。

キース・シェリン - GE - CFO

それは……。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ドン、最終的には 20% 台前半を目指しています。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

わかりました。では、話題を NBC のことに移したいと思います。ジェフ、プレゼンテーションで、NBC ではマイナスが出たとおっしゃっていましたね。去年から先行投資の多くを売却したため、今年は準備が整っていますよね。NBC ユニバーサル の 2 桁成長を果たすための来年の計画についてお話しください。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ドン、来年 2 桁成長を達成するには、プライムタイムの視聴率の回復が必要となるでしょう。我々は非常に堅調な事業モデルを確立したと考えています。不安要素はかなり減っていると思います。あとは、もっと良い番組をつくる必要がありますね。こういったことに尽力しています。これが、2006 年の 2 桁成長を目指すために必要なことです。

しかしドン、それ以上に、弊社全体を見ていただくと、弊社の他の事業が好調であるため、2006 年の見方については変えるつもりはありません。NBC ユニバーサルの向上に期待していますが、同時に弊社の他の事業もさらに成長していくでしょう。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

ありがとうございました。

オペレータ

メルル・リンチのジョン・インチさん。

ジョン・インチ氏 - メルル・リンチ - アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。トランスポーターション事業について少し質問させてください。航空機とレール部門の環境は大変堅調ですね。この事業は見通しより少し伸び悩んでいました。OE とアフターマーケット、もしくは受注のタイミングに関連して、様々な問題があったのでしょうか。この結果についてどのように考えればよろしいのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

申し上げたとおり、エンジン事業には何も問題がありませんでした。収益は 7%増、営業利益は 18%増。問題はレール部門です。本四半期、レール部門の営業利益が減少しました。申し上げたように、EVO 機関車に力を入れているのですが、複合的な問題があります。目標の生産高には到達しましたが、弊社はコストが少しかさむ初期の機関車を扱っています。サプライヤーへの発注を増やすにあたってコストを下げ、サプライチェーンをより効率的なものにし、鉄鋼で行ったような値上げを考慮する必要があります。

弊社は EVO 機関車の価格プレミアムを得つつあり、同時にサプライチェーンを強化する必要があります。ですからジョン、あなたがおっしゃる問題に関係があるのはレール部門ですね。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

そうですね。ではキース、航空機エンジン事業の業績は予想通りでしたか。それとも、御社の予想を少し上回っていたのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

やや上回っていましたね。ジョン、第 2 四半期に得るはずだった 3,000 万ドルか 4,000 万ドルを下半期に得るでしょう。それは、EVO のコスト計画を実行中で、下半期には収益が上がるためです。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

なるほど。ジェフ、1 つ補足質問があります。8%の内部成長に話を戻したいと思います。このサイクルを通して御社がどのようにして 8%増の成長を遂げるかということ、申し分なく話していただきました。ただ、来年のことで気になるのが、事業で大きな成果を得られるのかどうかという点です。2006 年は、経済状況に基づいて考えると、増益 8%達成は少し難しくなるのではないのでしょうか。また、そのような理由で 2006 年の取引などについて多少考え方を変えられることはありますか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

ジョン、質問内容は 2 つありますね。我々は、今日の経済状況が 2006 年まで続くことを予想しています。弊社は堅調さやサービスクラウド化、インフラストラクチャー、そして充実したヘルスケア製品ラインなどを確立しているため、8%は良い目標であると考えています。問題ありません。また、弊社では多額のフリーキャッシュフローを生み出しています。申し上げたように、買収計画という面では、検討対象のリストは常に存在しますが、現時点では特にその必要はないと思います。買収の分野については引き続き慎重に進めていくつもりです。

今我々が話していることはキースもすでにお話したのですが、現在親会社支援の負債はゼロに下がっており、今後の弊社の業績を考えると、おそらく 200 億ドル以上の CFOA が見込まれます。ですから、我々は非常に柔軟な財務力を誇っています。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

ありがとうございました。

ビル・ケアリー - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

時間になりましたので、質問はあと 1 つか 2 つとさせていただきます。

オペレータ

AG エドワーズのトニー・ボーズさん。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。見通しについて1つ質問があります。第3四半期の1株当たり利益は、少し市場の予想に足りませんでしたね。年間で最低の数字でした。これは、第3四半期から第4四半期に事業の重点を移したということなのでしょうか。そのあたりの現状についてもう少しご説明いただけますか。

キース・シェリン - GE - CFO

今日まで弊社は下半期の見通し、つまり第3四半期や第4四半期の予想を発表していませんよ。トニー、1株当たり利益の数値と第1四半期と第2四半期の成果を見ていただき、そして第3四半期は13~16アップを見込んでいるという点を考慮していただくと順調であると言えます。したがって、変更はありません。発表したのが初めてですし、弊社は年間通して軌道に乗っています。そのため、好調さを反映して年間の予想下限を下げ……上げました。四半期ごとの数値を見ていただくと、大変堅調であることがわかりいただけるでしょう。第3四半期についてここまで詳しく述べたのはこれが初めてです。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

コマーシャル・ファイナンスについて1つ質問があります。トップレベルの成長はこの数四半期で鈍っているようですね。その点について何かコメントはありますか。いつか再加速するのでしょうか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

弊社では選別を行っています。弊社は市場において豊富な融資能力および引き受け能力を誇っています。弊社は豊富な流動資金を確保しており、買収についても検討しています。今後買収も増えていくでしょう。申し上げたように、流動資金と資産の還元利回りに基づいて、不動産ポートフォリオを若干選別しました。弊社は融資能力を活用してシンジケートに直接資金投入しています。

ですから、我々はこの、これまで同様大きなチャンスがあると考えているのですが、皆様には我々がこれらを直接市場に売却しているように見えるでしょう。この新しい方法により、弊社自身の資金を調達して収益と手数料収益を生み出しつつ、同時に弊社の融資能力をうまく活用できます。この方向性で何も問題はないと考えています。事業の状況について我々は満足していますし、現在のボリュームや市場における世界的なチャンスにも満足しています。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

トニー、キースが述べたことを繰り返したいと思います。弊社の融資能力は非常に高く、組織をあげて管理会計について非常に厳しい目で選別を行っています。この方法で間違いはないと考えています。中間市場のボリュームを見ていただくと経済状況の良い指標となるのですが、本四半期は14%増となっています。ですから、チャンスはあります。ただ、我々は管理会計について非常に厳しい目で選別を行っているのです。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

コメントありがとうございました。

オペレータ

リーマン・ブラザーズのボブ・コーネルさん。

2005 年 7 月 15 日 / 午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 2 四半期収益コンファレンス・コール

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

ありがとうございます、皆さん。 軍用スペア部品事業の見通しについて聞かせていただけますか。 短期的な受注については、軍用スペア部品は 4 月、5 月と不振気味だったように思います。 6 月はどうだったのでしょうか。また、残り半年についての見通しについて話していただけますか。

キース・シェリン - GE - CFO

我々は軍用スペア部品の供給のタイミングを見てきました。 6 月は 11 減であったと思いますので、少し落ちていますね。 これはタイミングだと思います。 トランスポーターチームは現状に大変満足しています。 下半期には好転すると予想しています……（複数の同時発言あり）。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

キース、いつ好転するとお考えですか。

キース・シェリン - GE - CFO

ここ数年にかけて中東で起きている軍事的な情勢を考えていただくと、弊社が多額の供給を行っていたことがおわかりいただけるでしょう。 下半期に安定して進めていくことができれば、軍用事業についてはすばらしい業績だと言えると思います。 この事業はサービスの最高レベルに達しているの、高利益が得られるでしょう、ボブ。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

はい。 もう 1 点、ガスタービン事業についてですが、この事業では本四半期に 3,500 万ドルの成果を上げているとおっしゃいましたよね。 需要、価格に関する世界的な見通しはどのようになっているのでしょうか。また、この事業における今後の採算ラインの見通しは、やや控えめになるのでしょうか。

キース・シェリン - GE - CFO

申し上げようとしていたのですが、発電事業には……（複数の同時発言あり）。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

スチームと……。

キース・シェリン - GE - CFO

いいえ、発電事業には風力部門と水力部門もあります。 それはすべてマーク・リトルに任せており、彼の強力なインフラストラクチャーとプロセスをうまく活用して運営しています。 本四半期では多くの受注を獲得しました。 本四半期の世界におけるガスタービンの受注は、昨年同期の 17 基に対し 21 基でした。 競合他社に負けない良好な業績です。 新規設備の価格は 8~10%ダウンしましたが、弊社では引き続きコスト削減を進めていきます。 そして、新しい事業モデルの単純化を進めていくにあたって、エナジー事業の構造についてもう一度考える必要があります。 このような受注率で、競争力を維持していけると思います。

需要は、欧州では高いとにらんでいます。 中国でも需要は高いでしょう。 中東でも需要が見込めます。 最後に、ボブ、タービン事業はガスタービンで数億ドルの利益を見込めると考えています。

オペレータ

ありがとうございました。最後に何かコメントはございますか。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼 CEO

皆さん、本日はご質問、ご静聴ありがとうございました。我々は弊社の業績に自信を持っております。お話ししてきた事業内容については順調に進めており、チームの成果について誇らしく思っております。弊社は幅広い強みを武器に事業を推進しており、キャッシュと内部成長に関して強いイニシアチブを発揮していると考えています。2006 年の下半期も GE は好調であると予想しています。

それではビル、お返しします。ありがとう。

ビル・ケアリー - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ、キース、ありがとうございました。皆さん、本日はご参加ありがとうございました。本日使用した資料は今後も弊社ウェブサイトで入手可能です。このウェブキャストの再生は、今日の午後からご利用いただけます。このコンファレンス・コールの議事録も掲載しますので、ご確認ください。

ジョアンナと私は本日残りの時間も待機しております。ご質問のある方は、お気軽にお電話ください。ありがとうございました。

オペレータ

皆様、本日はコンファレンス・コールにご参加いただきありがとうございました。これにてプレゼンテーションを終了いたします。接続をお切りください。それでは良い 1 日をお過ごしください。

お断り

トムソン・フィナンシャルは、ウェブサイトに掲示した文書、内容などの情報を変更する権利を保有し、この変更についていずれの個人にも通知する義務はありません。

イベント議事録の対象であるコンファレンス・コールでは、企業は各種の事案について提案などの前向きな主張を行うことができます。この前向きの主張は現在の展望をベースとしますが、危険や不確実性が伴うこともあります。実際の成り行きは、さまざまな重要な要因やリスクに基づいて行ったり、展望についての言明とはかなり異なったものとなることがあります。なお、これらの要因やリスクについては、各企業の最新の SEC ファイルで詳細を確認できます。各企業は、展望についての言明の基礎となる仮定事項の妥当性を明示し、またこれが妥当であると考えていることもあります。このいずれかの仮定事項が不正確または不正だと判明することもあるので、展望についての言明で想定した結果については、その実現可能性についての保証はしません。

議事録に盛り込まれた情報は、該当企業の意見交換内容を文字で表示したものであります。正確な議事録とするよう努力していますが、コンファレンス・コールでの報告内容については、重大な間違い、脱落および不正確さが発生する可能性があります。トムソン・フィナンシャルまたは該当企業は、当該ウェブサイトないしは議事録に基づいて行ったりした投資決定などについて、一切責任を負いません。ユーザーにおかれましては、該当企業のコンファレンス・コール資料および SEC ファイルを吟味のうえ、投資などの決定を行うようお願いいたします。

© 2005, トムソン・ストリートイベントズが著作権を所有します。